

道徳の時間学習指導案

福山市立旭小学校
指導者 赤尾 真由美

- 1 日 時 2002年12月10日(火) 第5校時
- 2 学 年 第6学年 赤尾学級 20名
- 3 場 所 6年 赤尾学級
- 4 主題名 ふるさとを思う心 4-(7) 郷土愛・愛国心
- 5 ねらい 郷土の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。
- 6 資料名 「ふるさとのサクラ」(文溪堂) VTR (プロジェクトX)
- 7 主題設定の理由
 - 自分の育った郷土は、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的支えとなるものである。郷土との積極的で主体的なかかわりを通して郷土を愛する心を育て、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。
この段階においては、郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。そのためには、郷土や我が国の発展に尽くし文化や伝統を育てた先人の努力を知り、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努めようとする心構えを育てる必要がある。
 - 本学級の児童は、一学期、国語の「ガイドブックを作ろう」において、自分たちの住んでいる町を歴史的視点、公共的視点、文化的視点等、多角的に捉えて取材した。そして、自分らしい表現で、ガイドブック作りをしていくことを通して、改めて町のよさに気づいていった。
社会では、歴史学習の中で、その時代々々の人々が、創り上げてきた文化を学んでいる。また、修学旅行では、直接歴史的建造物を見聞きしたり、もの作り体験や、雅楽を聴くことを通して、日本のよさについて感じている。しかし、自分の町のために活動している人に目を向けたり、進んで町のために働きたいと考えている子はまだ少ない。
 - 資料「ふるさとのサクラ」は、御母衣ダム建設に際しての実話である。ふるさと村の水没への思い、400年も生きてきた桜への強い思慕を伝え感じ取った多くの人々の熱い思いにより、困難な桜の古木の移植が成功した。村人はなくなった故郷をこの桜の木に見いだして懐かしむという内容である。
指導にあたっては、村を失うことから生まれる生活不安、ダムの大切さはわかるが村から離れたくない気持ちや寂しさ、400年も村の歴史とともに生きてきた桜への愛情、その村人の立場に立って考えた高碓さんや、困難な移植に従事した人々の心情、移植が成功したときの村人の喜びなどの心情を中心にして、この資料のもつ感動を味わえるようにしていきたい。
- 8 準備物 ワークシート 板書用掲示物 VTR プロジェクター

9 学習展開

| | 学 習 活 動 | 主な発問と予想される児童の反応 | 支援○と評価☆ |
|--------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導 入 | 1 資料への方向づけをする。 | ○自分の住んでいる町で、好きなところや、なくしたくないものを思い浮かべてみましょう。 ・楽しい祭りやみこしがある ・公園があっていつでも遊べる ・廃品回収など地域のためになる ・市の中央にあって便利に生活できる | ○事前に意識調査をしておく。 |
| 展 開 | 2 資料「ふるさとのサクラ」を読んで話し合う。 | ○桜の木の下で写真を撮る村の人たちはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・村から離れたくない ・ふるさとが消えるのは寂しい ・400年も生きてきたこの桜も沈んでしまうのはつらい ・最後のときを思い出に残そう | ☆自分たちのふるさがなくなってしまう悲しさや、みんなと別れる寂しさを感じることができたか。 |
| | 3 課題を設定する。 | 桜はなぜ守られたのだろう | |
| | 4 考えを深める。 | ○400年も生きてきた桜の難しい移植を果たした人々の姿からどんな気持ちが伝わってきますか。 ・何とかして桜を助けたい ・ダムに沈む人々へのせめてもの慰め ○村がダムの下に沈んだ後、移植された桜が満開に花開いたとき、村の人々はどんな思いで集まったのだろうか。 ・この桜のおかげで別れた人たちに会えた ・これからもこの桜が村を見守ってくれる ・難しい工事だったけど、みんなの願いが叶ってよかった ・桜も喜んでくれているに違いない ・莊川桜は、わたしたちのふるさとのしるしだ | ○ビデオを見て言葉や表情からも読みとらせる。 ○村の人にとって桜はどんなものだったのかを考えさせる。 ☆友達の見聞を聞きながら、自分の考えを発表しているか。 |
| | 5 自分のふるさと旭を見つめる。 | ○自分の考える旭のよさってどんなものだろう。 | ☆日記や写真を紹介する中で郷土を愛する心情が高まっているか。 |
| 終 末 | 6 ゲストティーチャーのお話を聞く。 | ○ゲストティーチャーのお話を聞きましょう。 | ○旭を大切に思うゲストティーチャーのお話に共感させたい。 |

道徳の時間学習指導案

福山市立旭小学校
指導者 山口幸造

- 1 日時 2002年12月10日(木)第5校時
- 2 学年 第6学年 山口学級 21名
- 3 場面 6年 山口学級
- 4 主題名 日本の心 4-(7)愛国心
- 5 ねらい 昔からの日本的な自然観を学ぶ中で、日本人としての心情を育てる。
- 6 資料名 「日本の心 - 鈴木大拙に学ぶ - 」(文部省資料)

7 主題設定の理由

郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。そのために、郷土や我が国の発展に尽くし文化や伝統を育てた先人の努力を知り、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努めようとする心構えを育てる必要がある。他国理解をしていくためには、まず自国の事を知り、誇りを持つことが大切である。自分という存在が点ではなく連綿と続いていることに気づいていくことで、自己の確立がなされ、自国と相手の国との正しい比較や認め合う心を持つことができる。二学期の国際交流集会を大きな節目として、自国理解を基底に据えた国際理解へと広げていく必要がある。

本学級の児童は、国際交流を三年間積み重ねて来ている。しかし、外国のゲストを迎えて、その国の事を知っていくことを中心に行ってきた。本年度は、総合的な学習の時間に国際理解を設定し、事前に児童に対して、どのような気持ちでゲストを迎えていくことができるのか、相手の立場に立って自分たちができることはどんなことがあるのかをやっていった。さらに、自国とゲストの国との関連についてや、事柄の比較などについても取り組みが始まったばかりである。

資料「日本の心 - 鈴木大拙に学ぶ - 」は、自然との調和を大切にする大拙の考えをもとに、日本の人々のもつ自然観について考えを深める事ができるものである。構成は、自然を尊び、自然を愛し、自然に生きる日本の心を浮かび上がらせていくエピソードとなっている。

指導にあたっては、日本にある古来からの価値観について、しっかりと内面化をはかっていきたい。今回は、グループでの話し合いを取り入れ、自分の意見との比較をはっきりと持たした授業をしていくことで、それぞれの違いを受け入れ、お互いが高まっていくようにしていきたい。さらに、最後に兄が言う「変化させてはならないもの」について学ぶなかで、今を生きる自分たちが大切にしていかなければいけない生き方としての価値観を継承していくべき存在であることを自覚させていきたい。

- 8 準備 板書用掲示物・ワークシート

9 学習展開

| | 学習活動 | 主な発問と予想される児童の反応 | 支援 と評価 |
|------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導 入 | 1. 考えを出す。 | 題「日本の心」とはどんなことをいうのだろうか。 | 子どもの経験からの意見をしっかりと出させていく。 |
| 展 開 | 2. 資料を聞いて、場面をつかむ。 | 共感できるところや気になるところはどんなところかを書く。 | 根拠を持った考えを書いていけるように支援をしていく。 |
| | 3. 課題を確認する。 | 大切にしていきたい日本の心 | |
| | 4. 考えを深める。 | <p>グループに分かれて、自分の考えと他の考えを比べていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水がたっぷりあるのに節約するなんてすごい。 ・山を征服する考えと友だちになるという考えが大きく違う。自然に対する考えが違う。 ・人間も、自然の中で生きているのだという考えでいる。 <p>1 から 3 の話に共通する自然に対する大拙の考えとはどんなことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切にし、自然とともに生きている。 ・あるから使うのではなく、無駄なことはしない。 <p>兄の言う「変化させてはならないもの」というものはどのようなことか、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものを大切にしていく心。 ・日本人としての誇りをもっていきたい。 | <p>自他の意見を尊重していくことができたか。</p> <p>いろいろな意見を聞いて、自分の判断理由が深まることができたか。</p> <p>意識の流れの中でつかんでいった事柄と関連づけて考えていくことができたか。</p> |
| 終 末 | 5. まとめをする。 | 身近な例を出し合い、日本の心について自分の考えをまとめる。 | |